

報 告 書

開催日時	平成27年11月6日（金）午後2時 ～ 3時30分	
開催場所	陸前高田市役所（3号棟第2会議室）	
出席議員	挨拶 伊藤明彦市議会議長	
	司会進行	佐々木一義
	報告者	伊勢 純
	記録者	中野貴徳、三井俊介
	議員	大坂 俊
参加人数	8人 他 報道 3名	
主な要望 ・ 提言等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 畜産業費の予算額は474万6000円だが、決算額は108万3469円となっている。予算を執行することはできなかったのか。来年度は積極的に執行してほしい。また、こういう施策があるということを知らなかった。もし事前に教えてもらえれば、みんなと相談して、意見を出すことができる。 ・ 生産物を保存する倉庫などの施設への補助があると助かる。ライスセンターや営農の拠点センターに収穫したものを持っていくが、倉庫がない。そういうものに対する補助もJAなどと協力しながら考えてほしい。仮置き場でも構わない。機械は震災特例で揃えることができたが、倉庫に対する補助金や助成金が少ない。今泉地区でも困っているライスセンターでできたものを置く場所もない。 ・ 行政、民間が一体となって事業化に取り組むのが必要。 ・ 鹿の被害は畜産農家でもあるので、使いたい農家もいる。制度に付いて当時者の農家が知らないのは良くないし、当時者にとって使い易い制度にしてほしい。（小さい農家にはそれにあつた支援を考えてほしい） ・ 予算の要望や提案をしたいが、予算の項目がわからないと意見が出しづらいので教えてほしい。ホームページなどは見ない。伝えているじゃなくて、伝わるようにしてほしい。 ・ TPPになり、日本産の米を海外へ全て売ってしまうと国内で国産の米が食べられなくなる可能性がある。それは防いでほしい。 ・ 高田のような小さい地域で行っている場所では国の補助金などを有効活用できないのではないかと。有効活用できるようにしてほしい。 	

い。

- ・ 農家も高齢化してきている。担い手も育てなくてはいけない。そして若い担い手が協力していくことが求められる。頑張る人を応援するようにしてほしい。
- ・ 高田の現状や当市の農業を今後どうしていくのかについて、関係機関で話し合う場がもっと必要。
- ・ 食料自給率について考えていく必要がある。
- ・ 定年を迎えた方が、きゅうりをはじめとした農作物を作りながら10～20年の急場をしのげる。生活の為、子供を大学にやるためにやる農業とライフラインの農業では天と地ほどの違いがある。健康にもよく、陸前高田のような中山間地の農地を利用するには最適だし、医療・保険の面についても良い。地方創世の一面として農家だけでなく地域一丸となって頑張るところを訴える必要がある。
- ・ リンゴのわい化栽培による、後継者問題への取り組みを、他地域の実例などを参考に岩手県とタイアップして「新わい化リンゴ」の栽培を始めた。1年目から収穫でき、新規就労でもすぐに収入に繋がる可能性は出てきたが、苗木の価格と支柱代が1本あたり3000円以上する。1反歩に200本植え、経営が成り立つには1町歩必要であり初期投資額が大きい。そういう問題もあるので応援してもらいたい。

議会広聴広報特別委員会

広聴小委員会小委員長 藤倉 泰治 殿

平成27年11月24日

陸前高田市議会 議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成27年議会報告会 産業建設常任委員会 班

班長 大坂 俊 ⑩